

平成24年2月15日

村上市長 大滝 平正 様

荒川地区地域審議会
会長 会 田 健 次

(仮) 定住の里づくりアクションプラン (素案) について (答申)

平成23年11月15日付け村荒振第23号で諮問のあったこのことについて、別紙のとおり答申します。

答 申 書

荒川地区地域審議会

- 1 第1次村上市総合計画の重点戦略である「定住の里づくり」の柱となる5つの戦略プロジェクトの中で、後期実施計画期間中（平成25～28年度）に特に力を入れて取り組むべき施策の方向性について

村上市は5つの地区それぞれが異なる特性を持っており、同じプロジェクトに取り組むにも方向性や重点を置くべきものが違います。それぞれの地区で何を中心に据えて推進すべきかを考え、地区同士の分担と連携を模索しながら、後期実施計画を検討していくべきと考えます。各施策の方向性について、おおむね異論はありませんが、以下の事項を十分に尊重し、取り組まれるよう要望します。

（1）産業元気プロジェクトについて

農商工連携については、新商品の開発だけではなく、日常的に地域の農産物が地域で消費されるための仕組みづくりについても検討すべきです。地元の事業者と農業生産者との提携を確立していくために、JA等関係団体とも連携しながら、課題解決に取り組んでいく必要があります。

また、地域資源を活用した農林漁業の6次産業化については、地元の産業を守っていくという視点が不可欠な要素だと考えます。地元以外の産物が流入してくる懸念や既存の農業団体との関係など、6次産業化についての検証を深め、今後を見据えた上で取り組んでいくべきです。

（2）交流・体験プロジェクトについて

当地区において定住人口の拡大を考えた場合、クラインガルテンや空き家の利活用などによる「田舎暮らし」の場としてよりも、近隣の職場に通勤可能な居住地として、宅地化推進等の住環境整備に取り組んでいくべきものと考えます。

（3）健やか・子育て応援プロジェクトについて

健康づくりの推進については、運動や食育による健康づくりに取り組む中で、地域で共に学び、人と人とのつながりを育んでいく効果も生まれます。そのような多面的効果を重視しながら、事業を推進していくべきものと考えます。

(4) 人づくりプロジェクトについて

方向性について問題はないと考えますが、現に地域文化を育成していくための支援策を充実させていくことが必要です。

(5) 暮らし応援プロジェクトについて

公共交通体系の整備については、住民への周知を進め、利用者の拡大を図る中で、最大限利便性を向上させた運行を目指すべきです。高齢者に対する買物支援、地元商業への波及効果等を視野に入れながら、事業を推進していく必要があります。

2 これまでに各地域審議会から提案された地域活性化に向けての意見に基づいた、各地区で特に力を入れて取り組むべき施策の方向性について

① 清流荒川を活かした産業の活性化

方向性について問題はありませんが、自然環境が守られていることが活用の前提です。山、川、海はつながっており、それら豊かな自然を守っていくための取り組みを同時に進めていく必要があります。また、活用を拡げていくためには、河川や周辺の整備、清流荒川のブランド化を推進する組織の育成など、行政の担う役割は大きいものと考えます。

② 坂町病院活性化のための環境整備

方向性について問題はありません。健康で安心して暮らせる環境が確保されるために、坂町病院の医療体制の充実が喫緊の課題です。

当地区は村上市の中で唯一人口減少が少ない地区であり、交通利便性や公共施設が集中しているなどの「住みやすさ」が特性の一つとしてあげられます。この特性を活かして地域を活性化していくための方向性として、当地区を村上市はもとより、近隣地域のベッドタウンとして位置づけ、他地区での企業誘致への取り組み等と連携させていくべきと考えます。宅地化の推進等により住環境を向上させ、人が定着できるまちづくりを進めることは、産業をはじめ地域経済の活性化や医療体制の充実にも結び付いていくものです。